

事務事業評価シート

H28(標準事業)

① 基本事項	計画コード	事業名	部名	建設部
	08155-1	狹隘道路後退用地整備事業(道路橋梁一般事業)	室名	用地管理室
	基本施策の大綱	01:快適な都市空間の創造	財	会計 一般会計
	基本施策	06:住環境の向上	務	款 土木費
施策体系	施策の方向	02:安全・快適な住環境の整備	科	項 道路橋梁費
	戦略プロジェクト		目	目 道路橋梁総務費

② 目的・概要	対象	市民
	目的	市民の理解と協力のもと、狹あい道路に係る後退用地の確保及び整備を進めることにより、道路の利便性や安全性を高め、生活道路の充実を図る。
概要	概要	市内の市道を含む公道で幅員4m未満の道路(狹あい道路)に接する敷地の建物の建て替え等の際に、道路中心線からそれぞれ2m以上後退した用地を市に寄附いただき、建築基準法に規定される4m以上の幅員となるよう、道路の拡張整備を促進する。

		27年度	28年度
①	名称	申請件数	計画値
	補足	道路後退用地の助成申請等協議した件数	実績値
②	名称		計画値
	補足		実績値
③	名称		計画値
	補足		実績値

年度計画				年度実績			
				申請件数・・・54件 実績件数・・・19件(報償費)、44件(助成金)			
④ 事業の計画・実績	事業費	計画額	予算額	決算額	総人件費 ①	7,323	平均給与額×③
		国庫支出金	15,933	15,916	一般職員人件費 ②	7,323	
	県支出金	804	804	所要人員 ③	1.00		
	地方債			臨時職員人件費 ④	0		
	その他			受益者負担額 ⑤	0		
	一般財源	15,129	15,112	受益者負担率	0.0% ⑤ / ⑥		
	再掲	翌年度への繰越額					
		前年度からの繰越額					
		総人件費	①	7,323			
		総コスト	⑥	23,239			

⑤ 事業の評価	【事業の成果】	平成21年度から着手した事業であり、制度としては定着してきた。たとえ、路線のうち一箇所だけ片側だけの道路後退が行われた場合にあっても、待避所的な役割として機能することから、家屋の連担する市街地においては、沿道住環境の向上のみならず、円滑かつ安全な道路交通の確保、生活道路の機能向上により、良好な都市の形成に寄与するものと考え。また、当年度は、路線単位での中心線立会を2路線実施した。	総合判定
			A
			順調に進んだ
	【反省点・課題】	中心線の確定については、申請のあった箇所ごとに決定しており、徐々に成果を伸ばしてきているものの、個人中心の事業であったことから、道路線形が保たれないケースが目立った。そのようなことから、路線単位での中心線立会を推進する必要があり、狹あい道路対策に悩んでいる地区において、当該事業を行っていただく必要がある。	
	【改善の方向性】	狹あい道路対策に悩んでいる地区において、当該事業を知っていただく必要がある、広報等でPRする必要がある。また、これと同時に道路改良事業と当該事業の違いについても知っていただく必要がある。	
事業目的の妥当性: 適切		有効性: 適切	最終評価確認者: 用地管理室長 村山成俊